

(4) サービス利用状況

1) サービス利用数

サービス利用数については、上位 10 人のサービス利用数の平均値は 3.2 種類、下位 10 人のサービス種類数の平均値は 2.7 種類であった。

表 11-5 合計ケア時間上位下位 10 人の平均サービス利用数

	平均値(種類)	標準偏差	最小値	最大値	N
上位 10 人	3.2	1.0	2	5	10
下位 10 人	2.7	1.8	1	7	10

表 11-6 合計ケア時間上位下位 10 人のサービス利用数の分布

	上位 10 人		下位 10 人	
	N	%	N	%
1 種類			2	20
2 種類	3	30	4	40
3 種類	3	30	2	20
4 種類	3	30	1	10
5 種類	1	10		
7 種類			1	10
合計	10	100	10	100

2) サービス利用組み合わせ

サービス利用組み合わせについては、以下の表 11-7 のようになった。上位 10 人はすべての高齢者が福祉用具貸与のサービスを利用していた。サービス利用数としては、5 種類が一番多く（1 名）、次いで 4 種類（3 名）であった。

下位 10 人については、上位 10 人で全員利用していた福祉用具貸与は半数の 5 人であった。利用数としては、7 種類（1 名）が一番多く、その後 4 種類（1 名）、3 種類（1 名）と続いた。

表 11-7 合計ケア時間上位 10 人のサービス利用組み合わせ（利用数降順）

利用数	組み合わせ	N	%
5	訪介、訪入、訪看、訪り、用具	1	10
4	訪介、訪入、訪看、用具	2	20
4	訪入、訪看、訪り、用具	1	10

3	訪看、通り、用具	1	10
3	訪入、訪看、用具	1	10
3	訪介、訪看、用具	1	10
2	通り、用具	1	10
2	通介、用具	1	10
2	訪看、用具	1	10
	合計	10	100

表 11-8 合計ケア時間下位 10 人のサービス利用組み合わせ (利用数降順)

利用数	組み合わせ	N	%
7	訪介、訪入、訪看、訪り、通介、通り、用具	1	10
4	訪介、訪看、通介、用具	1	10
3	訪介、訪看、用具	1	10
3	訪介、訪看、訪り	1	10
2	通り、用具	1	10
2	訪介、用具	1	10
2	訪介、通介	1	10
2	訪介、訪看	1	10
1	訪看	1	10
1	訪介	1	10
	合計	10	100

2. 合計ケア時間の上位下位 10 人に提供されていたケア内容

(1) 合計ケア時間の上位下位 10 人に提供されていた合計ケア時間

合計ケア時間の上位 10 人の 1 日あたりの平均ケア提供時間は 707.7 分であり、下位 10 人は 15.6 分であった。また、上位と下位合計ケア時間およびの属性をまとめると表 11-10 のようになった。

表 11-9 ケア時間上位と下位の合計ケア時間の比較

	1 日平均(分)	1 週間平均(分)	標準偏差	最小値	最大値
上位 10 人	707.7	4953.7	104.7	602.9	961.4
下位 10 人	15.6	109.2	6.6	6.1	25.7

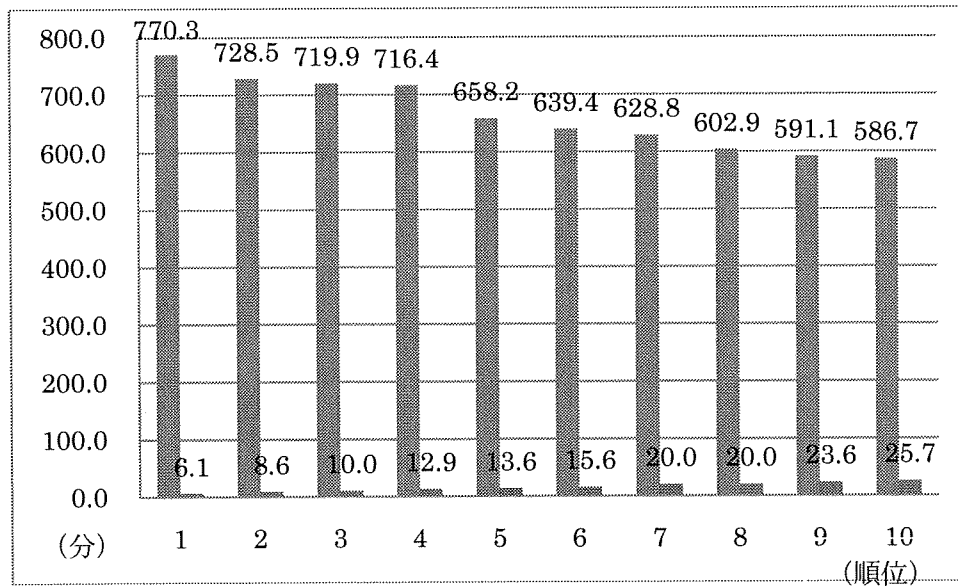


図 11-1 ケア時間上位と下位の 1 日あたりの合計ケア時間の分布

表 11-10 合計ケア時間上位下位 10 人の合計ケア時間および属性のまとめ表

上位下位	順位	ID	1日平均(分)	要介護度	年齢	性別	利用サービス	利用数
上位	1	284	770.3	要介護3	97	女性	訪看、用具	2
	2	193	728.5	要介護5	79	男性	訪介、訪入、訪看、訪り、用具	5
	3	338	719.9	要介護5	78	男性	訪介、訪入、訪看、用具	4
	4	67	716.4	要介護5	79	男性	訪介、訪入、訪看、用具	4
	5	420	658.2	要介護5	94	女性	訪介、訪看、用具	3
	6	273	639.4	要介護3	79	男性	通介、用具	2
	7	474	628.8	.	89	女性	訪入、訪看、訪り、用具	4
	8	245	602.9	要介護4	83	男性	訪看、通り、用具	3
	9	100	591.1	要介護5	93	女性	訪介、訪入、訪看	3
	10	506	586.7	要介護5	59	男性	訪介、訪入、訪看、用具	4
下位	1	497	6.07	要介護1	83	女性	訪介、訪入、訪看、訪り、通介、通り、用具	7
	2	480	8.57	要介護1	79	女性	訪介、訪看	2
	3	441	10	要介護1	75	女性	訪介、訪看、訪り	3
	4	106	12.86	要支援1	76	女性	訪介	1
	5	481	13.57	要介護1	93	女性	訪介、通介	2
	6	337	15.57	要支援2	.	女性	訪介、訪看、用具	3
	7	434	20	要介護1	86	女性	通り、用具	2
	8	461	20	要介護1	84	男性	訪介、訪看、通介、用具	4
	9	501	23.57	.	84	女性	訪介、用具	2
	10	439	25.71	要介護2	82	男性	訪看	1

(2) 合計ケア時間の上位下位 10 人に発生したケア内容別ケア時間

1) 合計ケア時間上位 10 人に発生したケア内容別ケア平均時間

62 種類中 43 種類のケアが発生していた。発生率が最も高いケア内容は「対象者に関する間接業務」で 100%であり 1 日平均 26.8 分のケアが発生していた。90%の発生率であったケア内容は、「排便及びおむつ・パット介助」、「観察・測定・検査」、「更衣」であり、それぞれ 78.8 分、43.5 分、19.2 分のケア時間であった。

80%の発生率であったケア内容は、「薬剤の使用」、「薬剤の使用」、「口腔・耳ケア」であり、それぞれ 31.6 分、15.7 分、14.5 分のケア時間であった。

1 日平均のケア時間が最も長いケア内容は、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」で 253.2 分であり、発生率は 60%であった。次いで「行動上の問題の発生時の対応」で 240.1 分であり、発生率は 20%と比較的低かった。続いて「行動上の問題の予防的対応」が 139.3 分、「来訪者への対応」が 88.6 分、「摂食」が 71.7 分などと続いた。

なお、以下のケアについては、ケアが発生していなかった。「月経への対処」、「その他の入浴」、「起立」、「介助用具の着脱」、「その他の移動」、「その他の食事」、「食べ物の管理」、「金銭管理」、「戸締まり・火の始末・防災」、「その他の生活自立支援」、「行事、クラブ活動」、「外出時の目的地での行為」、「職能訓練・生産活動」、「社会生活訓練」、「社会生活支援のその他」、「行動上の問題の予防的訓練」、「その他の行動上の問題」、「応用日常生活訓練」、「言語・聴覚訓練」、「スポーツ訓練」、「牽引・温熱・電気療法」、「その他の機能訓練」、「職員に関する間接業務」、「その他の間接業務」であった。

表 11-11 合計ケア時間上位 10 人に発生したケア内容別ケア時間

	1日平均	1週間平均	標準偏差	変動係数	N	発生率
101 対象者に関する間接業務	26.8	187.6	23.2	86.4	10	100
42 排便及びおむつ・パット介助	78.8	551.9	67.8	86.0	9	90
84 観察・測定・検査	43.5	304.2	59.8	137.6	9	90
18 更衣	19.2	134.1	23.4	122.2	9	90
52 清掃・ごみの処理	11.5	80.8	10.3	88.9	9	90
81 薬剤の使用	31.6	221.5	24.1	76.3	8	80
15 口腔・耳ケア	15.7	109.9	22.7	144.7	8	80
51 洗濯	14.5	101.6	9.7	67.1	8	80
33 食器洗浄・食器の片づけ	18.6	130.1	16.2	87.1	7	70
12 清拭	26.3	183.8	22.5	85.9	7	70
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	253.2	1772.5	205.4	81.1	6	60

34	摂食	71.7	501.8	59.2	82.6	6	60
31	調理	65.8	460.8	17.0	25.9	6	60
83	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	25.1	175.8	36.1	143.7	6	60
11	入浴	24.9	174.2	14.5	58.4	6	60
41	排尿	16.9	118.4	34.7	205.3	6	60
14	洗面・手洗い	6.7	46.8	5.4	80.4	6	60
35	水分摂取	3.1	22.0	1.8	56.4	6	60
91	基本日常生活訓練	27.4	191.8	7.9	29.0	5	50
23	体位変換	25.1	175.8	30.7	122.3	5	50
21	敷地内の移動	13.8	96.4	18.6	135.1	4	40
17	整容	6.9	48.4	2.9	42.1	4	40
22	移乗	11.0	76.7	10.5	95.6	3	30
86	病気の症状への対応	10.2	71.7	13.5	132.1	3	30
59	その他の会話	5.7	40.0	8.0	140.9	3	30
71	行動上の問題の発生時の対応	240.1	1680.5	206.2	85.9	2	20
72	行動上の問題の予防的対応	139.3	975.0	160.6	115.3	2	20
24	起座	8.9	62.5	11.6	130.1	2	20
32	配膳・下膳	2.1	15.0	2.0	94.3	2	20
53	整理整頓	1.8	12.5	0.5	28.3	2	20
64	来訪者への対応	88.6	620.0			1	10
13	洗髪	38.6	270.0			1	10
63	文書作成	8.6	60.0			1	10
49	その他の排泄	5.7	40.0			1	10
65	外出時の目的地までの移動	5.7	40.0			1	10
89	その他の医療	4.3	30.0			1	10
85	指導・助言	2.1	15.0			1	10
62	電話、FAX、E-mail、手紙	0.4	2.5			1	10

2) 合計ケア時間下位 10 人に発生したケア内容別ケア平均時間

62 種類中 16 種類のケアが発生していた。発生率が最も高いケア内容は「その他の会話」70%で、ケア時間は 4.6 分であった。次いで「清掃・ごみの処理」が 60%で 7.8 分、「観察・測定・検査」が 60%で 2.0 分であった。

1 日平均のケア時間が最も長いケア内容は、「清掃・ごみの処理」が 7.8 分で発生率は 60%で比較的高かった。次いで「外出時の目的地までの移動」が 6.7 分で発生率は 30%、「金銭

管理」が 5.7 分で発生率は 10%と低かった。

なお、以下のケアについてはケア時間が発生していなかった。「入浴」、「清拭」、「洗髪」、「洗面・手洗い」、「口腔・耳ケア」、「月経への対処」、「整容」、「更衣」、「その他の入浴」、「移乗」、「体位変換」、「起座」、「起立」、「介助用具の着脱」、「その他の移動」、「摂食」、「水分摂取」、「その他の食事」、「排尿」、「排便及びおむつ・パット介助」、「その他の排泄」、「戸締まり・火の始末・防災」、「その他の生活自立支援」、「行事、クラブ活動」、「電話、FAX、E-mail、手紙」、「文書作成」、「来訪者への対応」、「外出時の目的地での行為」、「職能訓練・生産活動」、「社会生活訓練」、「社会生活支援のその他」、「行動上の問題の発生時の対応」、「行動上の問題の予防的対応」、「行動上の問題の予防的訓練」、「その他の行動上の問題」、「薬剤の使用」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」、「病気の症状への対応」、「その他の医療」、「応用日常生活訓練」、「言語・聴覚訓練」、「スポーツ訓練」、「牽引・温熱・電気療法」、「その他の機能訓練」、「職員に関する間接業務」、「その他の間接業務」であった。

表 11-12 合計ケア時間下位 10 人に発生したケア内容別ケア時間

	1 日平均(分)	1 週間平均(分)	標準偏差	変動係数	N	発生率
59 その他の会話	4.6	32.1	4.4	0.9	7	70
52 清掃・ごみの処理	7.8	54.8	3.7	0.5	6	60
84 観察・測定・検査	2.0	14.2	1.5	0.8	6	60
65 外出時の目的地までの移動	6.7	46.7	5.0	0.8	3	30
101 対象者に関する間接業務	1.7	11.7	1.1	0.7	3	30
32 配膳・下膳	4.3	30.0	4.0	0.9	2	20
31 調理	3.2	22.5	1.5	0.5	2	20
85 指導・助言	1.4	10.0	0.0	0.0	2	20
51 洗濯	5.7	40.0	.		1	10
55 金銭管理	5.7	40.0	.		1	10
54 食べ物の管理	2.9	20.0	.		1	10
91 基本日常生活訓練	2.9	20.0	.		1	10
21 敷地内の移動	1.4	10.0	.		1	
53 整理整頓	1.4	10.0	.		1	10
33 食器洗浄・食器の片づけ	1.1	7.5	.		1	10
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	0.7	5.0	.		1	10

3) 合計ケア時間上位 10 人に発生したケア内容別ケア時間の事例検討

① ID284

ID284 は、調査対象の中で最も長いケアを家族から提供されていた。要介護度は 3 であり、麻痺が左下肢と右下肢にあり、関節可動域の制限が股関節、膝関節、足関節にあることから、寝返り、起き上がりは、できないが、座位保持は、支えてもらえばできるが、歩行はできず、移乗、移動は全介助であった。洗身は、行っていなかった。ほぼ寝たきりであり、じよくそうもあった。

えん下はできるが、食事摂取や飲水は一部介助となっており、排尿、排便、口腔清潔、洗顔、整髪、つめ切り、上衣の着脱、スボン等着脱も全介助であった。

直前を思い出すことや、場所を答えることはできないが、自分の名前を答えることや、今の季節は理解でき、意思は、ときどき伝達でき、指示もときどき通じることから、薬の内服や金銭の管理や電話の利用は、一部介助となっていた。

BPSD に係るような行動としては、ひどい物忘れや昼夜逆転があり、大声を出すことがあり、暴言や暴行、落ち着きが無いことがときどきあるという状況であるが、夜間 11 時から、大声を出し、ふとんをけとばすといった行動を起こすことから、家族が二人で、話を聞き、落ち着かせて、眠らせるために、そばにいるという状況が夜間に 6 時間程度のケアとして発生しており、さらに、こういった夜の不眠の状況が週に 3 回以上発生していることから、ケアとしては、63 種類中、19 種類が発生していただけであったが、「行動上の問題の発生時の対応」は 1 日あたりで 385.9 分も発生していた。

次いで長かったのは、「排便及びおむつ・パット介助」154.3 分、「摂食」85.0 分であったが、これらの 3 つのケアだけで 1 日平均 1 時間以上提供されていた。このほかに「調理」40.7 分、「行動上の問題の予防的対応」25.7 分、「薬剤の使用」16.4 分、「口腔・耳ケア」14.7 分と、夜間に眠らせるために、安定剤を投与することも行われており、さまざまな日常生活動作の介助だけでなく、こういった行動への対応に時間がかかっていた。

表 11-13 ID284 に発生したケア内容別ケア時間

	1 日あたりのケア時間	1 週間のケア時間
合計ケア時間	770.3	5392.0
71 行動上の問題の発生時の対応	385.9	2701.0
42 排便及びおむつ・パット介助	154.3	1080.0
34 摂食	85.0	595.0
31 調理	40.7	285.0
72 行動上の問題の予防的対応	25.7	180.0
81 薬剤の使用	16.4	115.0
15 口腔・耳ケア	14.7	103.0
51 洗濯	7.1	50.0

52	清掃・ごみの処理	6.8	47.5
14	洗面・手洗い	5.7	40.0
18	更衣	5.7	40.0
84	観察・測定・検査	5.4	38.0
33	食器洗浄・食器の片づけ	5.4	37.5
35	水分摂取	5.0	35.0
85	指導・助言	2.1	15.0
59	その他の会話	1.4	10.0
101	対象者に関する間接業務	1.4	10.0
41	排尿	0.7	5.0
86	病気の症状への対応	0.7	5.0

② ID193

ID193 の高齢者は、要介護5であった。左と右共に、上下肢の麻痺があり、関節可動域の制限が肩関節、肘関節、股関節、膝関節にあった。こういった障害のために、寝返り、起き上がり、両足立位保持、立ち上がりはできず、座位保持において、支えてもらえばできるという状況で、移乗、移動、洗身、食事摂取、飲水、排尿、排便、口腔清潔、洗顔、整髪、つめ切り、上衣の着脱、ズボン等着脱は全介助となっており、じょくそうもあった。また、えん下もできなかった。

視力は、ほとんど見えず、普通の声がやっと聞こえる程度であるが、意思の伝達はできず、指示は通じず、毎日の日課を理解できず、生年月日を答えることもできないし、年齢も答えることができない、直前を思い出すことも名前を答えることも、今の季節を理解ができない、場所を答えるができない日常の意思決定できない状況であった。BPSDに係る行動は全くなく、胃ろうがあることが特徴であった。

提供されていたケアは63種類中、18種類であった。時間が長く提供されていたケアとしては、痰の処理や経管栄養の注入の観察や、じょくそう予防に係るケアといった「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」が493.7分と特に長く、これに関わる「薬剤の使用」34.1分、「観察・測定・検査」31.6分が発生していた。このほかに、四肢稼働をするといった「基本日常生活訓練」31.4分も行い、さらに、機能レベルがかなり低いために、「入浴」27.9分、「排便及びおむつ・パット介助」26.1分、「清拭」12.8分、「体位変換」10.7分といったケアも常時提供している状況であった。

表 11-14 ID193 に発生したケア内容別ケア時間

	1日あたりのケア 時間	1週間のケア時間
合計ケア時間	728.5	5099.5
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	493.7	3456.0
81 薬剤の使用	34.1	239.0
84 観察・測定・検査	31.6	221.5
91 基本日常生活訓練	31.4	220.0
101 対象者に関する間接業務	31.4	220.0
11 入浴	27.9	195.0
42 排便及びおむつ・パット介助	26.1	183.0
12 清拭	12.8	89.5
23 体位変換	10.7	75.0
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	7.1	50.0
17 整容	5.5	38.5
15 口腔・耳ケア	5.4	37.5
51 洗濯	3.6	25.0
52 清掃・ごみの処理	2.9	20.0
18 更衣	2.1	15.0
53 整理整頓	1.4	10.0

③ ID 338

ID 338 の高齢者は、左上肢、左下肢麻痺あり、関節可動域の制限は肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足関節ありで、寝返りは、何かにつかまればできるであったが、起き上がり、座位保持、両足立位保持、歩行、立ち上がり、片足立位保持がすべてできず、移乗、移動、洗身、食事摂取、飲水、排尿、排便、口腔清潔、洗顔、整髪、つめ切り、上衣の着脱、ズボン等着脱の全介助、皮膚疾患があり、えん下はできなかった。

視力、聴力は普通で、意思の伝達できる、指示が通じる、毎日の日課を理解できる、生年月日を答える、年齢を答える、直前を思い出す、名前を答える、今の季節を理解できる、場所を答えることができ、BPSD に関しては、昼夜逆転、介護に抵抗をすることが時々あり、胃ろうがある高齢者であった。この高齢者に対しては、63 種類中、17 種類のケアが提供されていた。提供時間が長いケアとしては、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」521.9 分であり、胃ろうがあり、ネブライザーによる吸引がかなり多く、痰の処理に多くの時間を費やしていた。このほかに、ほとんど日常生活能力が低いため、「排便及びおむつ・パット介助」39.7 分、「基本日常生活訓練」30.0 分、「観察・測定・検査」25.7 分、「入浴」17.1 分が多く、手足のマッサージなどにも時間がかかっていた。「洗濯」12.9 分、「清拭」11.4 分、「洗面・手洗い」11.4 分といった基本的なケアも多かった。

表 11-15 ID 338 に発生したケア内容別ケア時間

	1 日あたりのケア時間	1 週間のケア時間
合計ケア時間	719.9	5039.5
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	521.9	3653.0
42 排便及びおむつ・パット介助	39.7	278.0
91 基本日常生活訓練	30.0	210.0
84 観察・測定・検査	25.7	180.0
11 入浴	17.1	120.0
101 対象者に関する間接業務	15.9	111.5
51 洗濯	12.9	90.0
12 清拭	11.4	80.0
14 洗面・手洗い	11.4	80.0
15 口腔・耳ケア	8.1	57.0
23 体位変換	7.9	55.0
22 移乗	6.9	48.0
18 更衣	6.4	45.0
17 整容	3.6	25.0
41 排尿	0.7	5.0
21 敷地内の移動	0.3	2.0

④ ID67

ID67 は、要介護度は 5 であり、訪介、訪入、訪看、用具と 4 種類のサービスを受けていた。「ストーマ」、「気管切開処置」、「経管栄養」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった特別な医療にかかわる項目がありとなっていた。これら特別な医療にかかわる処置や管理、あるいは状態の観察といったケアが多く発生していた。

また、寝たきりのため、特別な介護等や身の回りの世話にかかわる項目についても、ほぼ全介助であり療養上の世話にかかわるケアも多く発生していた。この高齢者に提供されていたケアは、63 種類中、19 種類であった。

一番時間が長かったのが、気管切開に伴う痰吸引やネブライザーといった「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」のケアであり、一日あたり 157.6 分提供されていた。

また、状態の観察にかかわる「観察・測定・検査」が 100.3 分提供されており、「薬剤の使用」も 73.6 分提供されていた。

その他には、「口腔・耳ケア」が 69.3 分、「調理」が 69.3 分、「清拭」が 65.7 分と療養上の世話にかかわるケアが長く発生しており、以上の 6 つのケアが 1 日平均 1 時間以上提供されていたケアであった。

その他に長く時間がかかったケアとしては、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」40.1 分、「体位変換」23.6 分、「移乗」22.9 分、「対象者に関する間接業務」17.5 分、「整容」10.0 分といったものが発生していた。

表 11-16 ID67 に発生したケア内容別ケア時間

	1 日あたりのケア時間	1 週間のケア時間
合計ケア時間	716.4	5014.5
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	157.6	1103.0
84 観察・測定・検査	100.3	702.0
81 薬剤の使用	73.6	515.0
15 口腔・耳ケア	69.3	485.0
31 調理	69.3	485.0
12 清拭	65.7	460.0
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	40.1	281.0
33 食器洗浄・食器の片づけ	30.0	210.0
23 体位変換	23.6	165.0
22 移乗	22.9	160.0
101 対象者に関する間接業務	17.5	122.5
17 整容	10.0	70.0

11 入浴	9.3	65.0
52 清掃・ごみの処理	7.9	55.0
35 水分摂取	4.6	32.0
18 更衣	4.3	30.0
86 病気の症状への対応	4.3	30.0
34 摂食	4.1	29.0
53 整理整頓	2.1	15.0

⑤ ID 420

ID 420 の高齢者は要介護 5 であり、訪問介護、訪問看護、福祉用具貸与の三つのサービスを利用していた。提供されていたケアは 63 種類中、14 種類であった。

特別な医療に関しては、「経管栄養」、「じょくそうの処置」があり、そのため一番長く発生していたのは、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」175.9 分であった。BPSD については特にありの項目はなかったが、認知機能にかかわるコミュニケーションがすべてできないとなっており、意思疎通が困難である高齢者であることが推察された。そのため、移動、身の回りの世話、特別な介護等の項目がほぼ全介助となっており、療養上の世話が多く必要な推察された。

とりわけ、「排便及びおむつ・パット介助」のケアについて 174.7 分と長く時間が発生していたが、おむつ交換といった排便にかかわるケアについては、家族 2 人でケアを提供していたため、他の高齢者より多く時間が発生していたものと推察される。呼吸器の処置、排泄の 2 つのケア内容が多く発生している高齢者であった。

その他にかかったケアとしては、「体位変換」78.6 分、「対象者に関する間接業務」77.1 分、「更衣」51.8 分、「薬剤の使用」44.2 分、「観察・測定・検査」20.1 分、「清掃・ごみの処理」14.3 分、「清拭」11.6 分といったケアが発生していた。

表 11-17 ID 420 に発生したケア内容別ケア時間

	1 日あたりのケア時間	1 週間のケア時間
合計ケア時間	658.2	4607.5
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	175.9	1231.0
42 排便及びおむつ・パット介助	174.7	1223.0
23 体位変換	78.6	550.0
101 対象者に関する間接業務	77.1	540.0
18 更衣	51.8	362.5
81 薬剤の使用	44.2	309.5
84 観察・測定・検査	20.1	141.0

52 清掃・ごみの処理	14.3	100.0
12 清拭	11.6	81.0
89 その他の医療	4.3	30.0
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	2.9	20.0
15 口腔・耳ケア	2.5	17.5
62 電話、FAX、E-mail、手紙	0.4	2.5

⑥ ID 273

ID 273 は要介護3であり、通所介護と福祉用具貸与のサービスを利用していた。高齢者に提供されていたケアは63種類中、17種類であった。時間が長く提供されていたケアは、「行動上の問題の予防的対応」252.9分であり、次いで「摂食」165.7分、「行動上の問題の発生時の対応」94.3分となった。1日平均1時間以上提供されていたケアであったが、この高齢者は、寝返りや起き上がりは何かにつかまればでき、移動も自立しているが、自分の名前は言えるものの、認知機能がかなり低下していた。昼夜逆転があるため複数の家族員が、夜中に起きて、問題が起こらないように予防的なケアが必要なのと、認知機能の低下から現在居るの場所の情報を消失することがあり、外出時には見守りが必要な状況が調査票に示されていた。

その他に長く時間がかかったケアとしては、「調理」50.7分、「洗濯」20.0分、「更衣」11.8分が発生しており、これは一般的な家事に係る時間であると推察された。

表 11-18 ID 273 に発生したケア内容別ケア時間

	1日あたりのケア時間	1週間のケア時間
合計ケア時間	639.4	4476.0
72 行動上の問題の予防的対応	252.9	1770.0
34 摂食	165.7	1160.0
71 行動上の問題の発生時の対応	94.3	660.0
31 調理	50.7	355.0
51 洗濯	20.0	140.0
18 更衣	11.8	82.5
41 排尿	8.4	58.5
81 薬剤の使用	8.4	58.5
33 食器洗浄・食器の片づけ	7.1	50.0
101 対象者に関する間接業務	6.4	45.0

65	外出時の目的地までの移動	5.7	40.0
52	清掃・ごみの処理	1.4	10.0
42	排便及びおむつ・パット介助	1.1	8.0
14	洗面・手洗い	0.7	5.0
21	敷地内の移動	0.1	1.0

⑦ ID 474

ID 474 は要介護度の情報はなかったが、訪問入浴、訪問看護、訪問リハ、福祉用具貸与のサービスを利用していた。

当該高齢者に提供されていたケアは 63 種類中、22 種類であった。一番長く、ケアを提供していたのは、「観察・測定・検査」182.0 分であり、次いで「摂食」90.0 分、「調理」86.8 分となった。これらの 3 つのケアが 1 日平均 1 時間以上提供されていたケアであった。

その他に長く時間がかかったケアとしては、「排便及びおむつ・パット介助」52.6 分、「敷地内の移動」39.6 分、「入浴」35.0 分、「清掃・ごみの処理」26.4 分、「更衣」22.0 分、「基本日常生活訓練」19.9 分、「対象者に関する間接業務」13.6 分、「食器洗浄・食器の片づけ」11.4 分といったものが発生していた。

寝返り、起き上がりはできないが、座位保持や両足の立位保持は、介助があれば、可能であることから、移動のために時間を要している状況が示されていた。えん下は見守りが必要であり、食事をかなり、ゆっくり食べさせており、時間がかかっていた。

表 11-19 ID 474 に発生したケア内容別ケア時間

	1 日あたりのケア時間	1 週間のケア時間
合計ケア時間	628.8	4401.5
84 観察・測定・検査	182.0	1274.0
34 摂食	90.0	630.0
31 調理	86.8	607.5
42 排便及びおむつ・パット介助	52.6	368.0
21 敷地内の移動	39.6	277.5
11 入浴	35.0	245.0
52 清掃・ごみの処理	26.4	185.0
18 更衣	22.0	154.0
91 基本日常生活訓練	19.9	139.0
101 対象者に関する間接業務	13.6	95.0
33 食器洗浄・食器の片づけ	11.4	80.0

63 文書作成	8.6	60.0
51 洗濯	8.2	57.5
49 その他の排泄	5.7	40.0
81 薬剤の使用	4.1	29.0
32 配膳・下膳	3.6	25.0
22 移乗	3.1	22.0
35 水分摂取	1.4	10.0
41 排尿	1.4	10.0
24 起座	0.7	5.0

⑧ ID 245

ID 245 は要介護4であり、訪問看護、通所リハ、福祉用具貸与のサービスを利用していた。当該高齢者に提供されていたケアは63種類中、24種類であった。一番長く提供されていたのは、「来訪者への対応」88.6分であり、次いで「排尿」87.6分、「調理」76.4分、「摂食」73.5分、「更衣」65.4分となった。以上、5つのケアが1日平均1時間以上提供されていたケアであった。

その他に長く時間がかかったケアとしては、「来訪者への対応」88.6分で、これは、当該週において、介護者がケアマネージャーと話をしている時間が長かったためであった。

これに付随して、「対象者に関する間接業務」52.9分も要介護高齢者のケア計画の記録に關しての業務が示されていたためであった。

このほかには、「食器洗浄・食器の片づけ」40.4分、「薬剤の使用」19.0分、「敷地内の移動」15.0分「その他の会話」15.0分、「清拭」13.6分、「入浴」12.9分、「洗濯」11.4分といったケアが発生していた。ケアマネージャーとの話し合い以外は、排尿の介助が長かった。

表 11-20 ID 245 に発生したケア内容別ケア時間

	1日あたりのケア時間	1週間のケア時間
合計ケア時間	602.9	4220.5
64 来訪者への対応	88.6	620.0
41 排尿	87.6	613.0
31 調理	76.4	534.5
34 摂食	73.5	514.5
18 更衣	65.4	458.0
101 対象者に関する間接業務	52.9	370.0
33 食器洗浄・食器の片づけ	40.4	282.5

81	薬剤の使用	19.0	133.0
21	敷地内の移動	15.0	105.0
59	その他の会話	15.0	105.0
12	清拭	13.6	95.0
11	入浴	12.9	90.0
51	洗濯	11.4	80.0
17	整容	8.6	60.0
84	観察・測定・検査	8.6	60.0
35	水分摂取	2.9	20.0
42	排便及びおむつ・パット介助	2.9	20.0
83	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	2.1	15.0
14	洗面・手洗い	1.4	10.0
15	口腔・耳ケア	1.4	10.0
52	清掃・ごみの処理	1.4	10.0
32	配膳・下膳	0.7	5.0

⑨ ID100

ID100 は、要介護5であり、訪問介護、訪問入浴、訪問看護のサービスを利用していた。62種類中16種類のケアが発生していた。ケアの種類は、多くないが、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」が153.9分、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」が92.7分と、かなり長かった。胃ろうを使っていることから、看護的な処置の時間が長いことが特徴であった。「排便及びおむつ・パット介助」が126.4分であり、このケアの時間も長かった。

表 11-21 ID 100 に発生したケア内容別ケア時間

	1日あたりの ケア時間(分)	1週間あたりの ケア時間(分)
合計ケア時間	591.1	4137.7
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	153.9	1077.3
42 排便及びおむつ・パット介助	126.4	884.8
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	92.7	648.9
11 入浴	47.1	329.7
91 基本日常生活訓練	37.1	259.7

15	口腔・耳ケア	21.3	149.1
51	洗濯	18.6	130.2
12	清拭	17.3	121.1
24	起座	17.1	119.7
101	対象者に関する間接業務	17.1	119.7
84	観察・測定・検査	15.4	107.8
52	清掃・ごみの処理	14.3	100.1
14	洗面・手洗い	6.6	46.2
23	体位変換	4.9	34.3
35	水分摂取	0.7	4.9
33	食器洗浄・食器の片づけ	0.4	2.8

⑩ ID506

ID506の高齢者は、要介護5であり、訪問介護、訪問入浴、訪問看護、福祉用具貸与のサービスを利用していた。

また、当該高齢者には、62種類中21種類のケアが発生していた。最も時間をかけていたのは、「排便及びおむつ・パット介助」で131.9分であった。次いで「調理」が71.1分、「薬剤の使用」53.3分、「清拭」51.4分、「洗髪」38.6分、「食器洗浄・食器の片づけ」35.4分と示されていた。

寝返り、起き上がりができず、座位もとっていないため、排泄の介助の時間が長く、とくに薬剤の使用に時間がかかっていることが特徴である。

表 11-22 ID 506 に発生したケア内容別ケア時間

	1日あたりの ケア時間(分)	1週間あたりの ケア時間(分)
合計ケア時間	586.7	4106.9
42 排便及びおむつ・パット介助	131.9	923.3
31 調理	71.1	497.7
81 薬剤の使用	53.3	373.1
12 清拭	51.4	359.8
13 洗髪	38.6	270.2
33 食器洗浄・食器の片づけ	35.4	247.8
101 対象者に関する間接業務	34.6	242.2
51 洗濯	34.3	240.1
52 清掃・ごみの処理	28.6	200.2

86	病気の症状への対応	25.7	179.9
91	基本日常生活訓練	18.6	130.2
82	呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	16.4	114.8
14	洗面・手洗い	14.3	100.1
34	摂食	11.7	81.9
83	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	5.7	39.9
35	水分摂取	4.3	30.1
15	口腔・耳ケア	2.9	20.3
18	更衣	2.9	20.3
41	排尿	2.7	18.9
84	観察・測定・検査	1.9	13.3
59	その他の会話	0.7	4.9

表 11-23 ケア合計時間1位から5位の要介護認定に必要な84項目と追加6項目の回答傾向

	284	193	338	67	420
麻痺ない	なし	なし	なし	なし	なし
麻痺,左上肢	なし	あり	あり	あり	あり
麻痺,右上肢	なし	あり	なし	あり	あり
麻痺,左下肢	あり	あり	あり	あり	あり
麻痺,右下肢	あり	あり	なし	あり	あり
麻痺,その他	なし	なし	なし	あり	あり
関節制限,肩関節	なし	なし	なし	なし	なし
関節制限,肘関節	なし	あり	あり	あり	あり
関節制限,股関節	あり	あり	あり	あり	あり
関節制限,膝関節	あり	あり	あり	あり	あり
関節制限,足関節	あり	なし	あり	あり	あり
関節制限,その他	なし	なし	なし	あり	あり
寝返り	できない	できない	何かにつかまればできる	できない	できない
起き上がり	できない	できない	できない	できない	できない
座位保持	支えてもらえばできる	支えてもらえばできる	できない	支えてもらえばできる	できない
両足立位保持	できない	できない	できない	支えてもらえばできる	できない
歩行	できない	できない	できない	できない	できない
移乗	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
移動	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
立ち上がり	できない	できない	できない	できない	全介助
片足立位保持	できない	できない	できない	できない	できない
洗身	行っていない	全介助	全介助	全介助	行っていない
じよくそう	ある	ない	ある	ある	ある
皮膚疾患	ない	ない	ある	ある	ある
えん下	できる	できない	できない	できない	できない
食事摂取	一部介助	全介助	全介助	全介助	全介助
飲水	一部介助	全介助	全介助	全介助	全介助
排尿	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
排便	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
口腔清潔	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
洗顔	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
整髪	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
つめ切り	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
上衣の着脱	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
ズボン等着脱	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
薬の内服	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助
金銭の管理	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助
電話の利用	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助	一部介助
日常の意思決定	できない	一部介助	できる	一部介助	できない
視力	約1m離れた視力確認票の図が見える	ほとんど見えない	普通	見えているのか判断不能	見えているのか判断不能
聴力	かなり大きな声なら何とか聞こえる	普通	普通	聞こえているのか判断不能	聞こえているのか判断不能
意思の伝達	ときどき伝達できる	できない	伝達できる	聞こえているのか判断不能	聞こえているのか判断不能
指示への反応	指示がときどき通じる	指示が通じない	指示が通じる	指示が通じない	指示が通じない
毎日の日課を理解	できない	できない	できる	できない	できない
生年月日を答える	できる	できない	できる	できない	できない
年齢を答える	できない	できない	できる	できない	できない
直前を思い出す	できない	できない	できる	できない	できない
名前を答える	できる	できない	できる	できない	できない
今の季節を理解	できる	できない	できる	できない	できない
場所を答える	できない	できない	できる	できない	できない
被害的	ない	ない	ない	ない	ない
作話	ない	ない	ない	ない	ない
幻視・幻聴	ない	ない	ない	ない	ない
感情が不安定	ない	ない	ない	ない	ない
昼夜逆転	ある	ない	ときどきある	ない	ない
暴言や暴行	ときどきある	ない	ない	ない	ない
同じ話や不快な音	ない	ない	ない	ない	ない
大声を出す	ある	ない	ない	ない	ない
介護に抵抗	ない	ない	ときどきある	ない	ない
目的無く動き回る	ない	ない	ない	ない	ない
落ち着きが無い	ときどきある	ない	ない	ない	ない
1人で戻れない	ない	ない	ない	ない	ない
目が醒せない	ない	ない	ない	ない	ない
無断で収集	ない	ない	ない	ない	ない
火元の管理	ない	ない	ない	ない	ない
物や衣服の破壊	ない	ない	ない	ない	ない
不潔な行為	ない	ない	ない	ない	ない
異食行動	ない	ない	ない	ない	ない
ひどい物忘れ	ある	ない	ない	ない	ない
点滴	なし	なし	なし	なし	なし
中心静脈栄養	なし	なし	なし	なし	なし
透折	なし	なし	なし	なし	なし
ストーマ	なし	なし	なし	あり	なし
酸素療法	なし	なし	なし	なし	なし
レスピレーター	なし	なし	なし	なし	なし
気管切開処置	なし	なし	なし	あり	なし
疼痛の管理	なし	なし	なし	なし	なし
経管栄養	なし	なし	なし	あり	あり
嚥ろう	なし	あり	あり	なし	なし
モニター測定	あり	なし	なし	なし	なし
じよくそうの処置	あり	なし	なし	あり	あり
カテーテル	なし	なし	なし	あり	なし
寝たきり度	C1	C2	C2	C2	C2
認知症度	IV	IIIb	IIb	IV	IV
日中の生活	横になっていることが多い	横になっていることが多い	横になっていることが多い	横になっていることが多い	横になっていることが多い
外出頻度	月1回未満	月1回未満	月1回未満	月1回未満	月1回未満
生活状況の変化	ある	ない	ない	ない	ない
行動,会話にならない	よくある	ない	ない	ない	ない
買ひ物	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
簡単な調理	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助
自分勝手な行動	ときどきある	ない	ときどきある	ない	ない
意味の独り言等	ときどきある	ない	ない	ない	ない
集団参加ができない	ない	ない	ない	ない	ない